

授業科目 評価学演習 II

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
押木 利英子、星 孝、菅原 和広、齋藤 慧		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	60 (中枢神経系：20)
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 中枢神経疾患の全体像をよりの確に捉えるために、必要な検査・評価方法を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 姿勢評価の意義を理解し、実施できる 動作分析（基本動作）の意義を理解し、実施できる 動作分析（応用動作・歩行動作）の意義を理解し、実施できる 片麻痺運動機能検査の意義を理解し、実施できる 筋トーマス検査の意義を理解し、実施できる 協調性検査の意義を理解し、実施できる バランス検査の意義を理解し、実施できる 脳卒中と運動耐用能を関係づける グループワークにおいて自ら積極的に取り組める 評価を行うためのオリエンテーションが適切に行える プッシュャー症候の評価について述べるができる 中枢神経系疾患患者の筋力について説明できる 提示事例に対し評価項目を検討し口頭で結果の説明ができる 					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	姿勢の評価		1, 5, 6, 7, 9, 10	演習、担当：星 孝	
2	動作分析（基本動作）		2, 5, 6, 7, 9, 10	演習、担当：星 孝	
3	動作分析（応用動作・歩行）		3, 5, 6, 7, 9, 10	演習、担当：星 孝	
4	片麻痺運動機能検査		4, 9, 10	演習、担当：星 孝	
5	筋トーマス検査		5, 9, 10	演習、担当：星 孝	
6	協調性検査		6, 7, 9, 10	演習、担当：星 孝	
7	軽度脳卒中患者に対する運動負荷的観点からの検査		8, 9, 10	演習、担当：星 孝	
8	プッシュャー症候群の評価		9, 10, 11	演習、担当：星 孝	
9	中枢神経疾患の評価の筋力測定		9, 12, 13	演習、担当：星 孝	
10	中枢神経疾患の評価に対する討議およびグループ学習		1～13	演習、グループ討議、担当：星 孝	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		診察と手技が見える 1 第2版	古谷 伸之	メディックメディア	2010・6,000円＋税
		シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学 テキスト	細田 多穂	南江堂	2010・5,700円＋税
参考書		ベッドサイド神経の診かた第17版	田崎義昭 他	南山堂	2010・7,560円
		病気がみえる Vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所	株式会社 メディックメディア	2011・3,800円＋税
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
<p>単位修得規程の出席条件に満たないものは、本科目試験の受験は不可とする。</p> <p>実技試験の結果を主として評価する。さらに筆記試験かレポート課題を実施する。2つの結果を加味した評価を行う。</p>		<p>実技演習を行うので、動きやすい服装で参加すること</p>			